

WACATE 2021 夏はまさに「なければつくればいいじゃない」

氏名： 風間 裕也

SNS： @nihonbuson

所属： 株式会社ビズリーチ

分野： Web

■ 過去直近 5 回の夏の WACATE をふりかえる

昨年夏の WACATE は開催中止となってしまったため、2 年ぶりの夏の WACATE です。

夏の WACATE は「狭く深く」。特定の内容を集中的に取り組むことをコンセプトにしています。

そこで、直近 5 回では、どんな内容を「狭く深く」行ったのかふりかえてみましょう。

開催回	取り扱った内容
WACATE2015 夏	ゆもつよメソッド
WACATE2016 夏	既存のテスト設計技法（どのテスト設計技法を扱ったかは非公開）を用いて、とある題材に当てはめる
WACATE2017 夏	既存のテスト設計技法「同値分割」「境界値分析」「デジジョンテーブル」「状態遷移テスト」「ユースケーステスト」「組み合わせテスト技法」を用いて、とある題材に当てはめる
WACATE2018 夏	既存のモデリング「ユースケース図」「アクティビティ図」「状態遷移」を用いて、とある題材に当てはめる
WACATE2019 夏	とある題材に対して、テスト計画を含む一連のテストプロセスを行う
WACATE2020 夏	※開催中止

■ 「既存の手法を選ぶ」から「手法を作る」へ

過去の WACATE 参加者にはたくさんのテスト設計技法を体験してもらったものの、

「テスト設計技法を適切なタイミングで使うことができない」

「モデリングをどのような時に活用すればよいのか分からない」

と悩まれている人の話をよく聞きます。

これは、今までの WACATE で扱ってきた内容は「既存の手法を選んで使ってみる」というコンテンツが多かったことが関係しているかもしれません。

そのような経緯もあって、今回の WACATE のコンテンツを考えました。

もしかしたら、今回の WACATE の場から、新たなテスト設計技法が誕生するかもしれません…！